

洋書輸入協会会報

VOL. 25

NO. 6

(通巻290号) 1991年 6 月

理事会報告

4 月26日(金)

(一) 定時総会の件

1. 「定時総会議事次第」(案)を審議ののち承認した。
2. 「理事会報告」(案)を審議ののち、若干の訂正を加えることとして承認した。
3. 定時総会に報告・提案する1990年度決算、1991年度予算案及び50周年記念事業特別会計案を審議ののち承認した。

(二) その他

5 月14日(火)

(一) 定時総会の件

訂正を加えた「理事会報告」(案)を審議ののち承認した。

(二) その他

1. 50周年記念事業

その一環としてのロゴ作成に関して、デザインを会員内で公募することが、山川隆司氏(ユサコ)から提案され承認した。

定時総会報告

1991年度定時総会は、5月14日(火)午後2.00から、学士会分館(本郷)にて開催された。

正会員100社のうち、出席46社、委任状31社、合計77社にて総会は成立。その後の出席9社、賛助会員の出席は5社であった。

司会者、栗原氏(洋販)の開会のことばののち、海老原理事長から大要次のような挨拶があった。

「洋書輸入協会は今年創立50周年を迎えた。この50周年の節目に、単に半世紀を回顧するだけでなく、業界として将来に向けた新しい展望をつくりあげる機会にした。過去半世紀の業界の主流は、欧米の出版物をわが国の科学技術、学術振興など、文化の発展のための重要な情報源として輸入してきた。今後はこれに加え、もっと世界全体を広く正しく知り合う意味での情報の提供が、わが国の立場であり、当業界に課せられた使命であろうと考える。印刷物以外の各種媒体をも積極的にとりくみ、互いに協力し、半世紀にわたって培った経験と信用を生かせば、外資にも十分対抗できる業界に脱皮できると信じている。

最近、わが国経済の減速振りが報道されている。しかし世界的景気後退は、IMFが先進工業国の経済成長見通

理事会報告	「会員紹介」欄への	おしらせ
定時総会報告	投稿のお願い	計 報
海外ニュース	洋書輸入協会史(62)	東京の坂と橋と文明開化(15)
	海外ニュース	広告

しを、昨年9月時点での2.4%から1.4%に下方修正したことで明らかなように、世界的傾向であり、まだまだ日本の成長率は3%台で、民需を中心に、これからも好況裡に推移して行くと思う。3月、4月の消費も活発であった。洋書輸入通関統計でも、昨年初めて500億円台にのったと発表された。このような状況下で、当業界のみが「稔りなき繁忙」であってはならない。市場拡大につなげる発想の転換を、この創立50周年を契機につくりあげることが出来るか否かが、当業界の将来を占うのではないかと考える。

これから議事に入るが、対応の迫られている問題が山積みしている今日、ご出席の皆様の率直な発言と提案を期待する。」

なお海老原理事長より、理事長代理として約7年半にわたり、実務上の協会事業を担当し活動していた小林英一氏を、丸善における職務担当の変更に伴い、理事長代理からはずし、関根圭治氏（丸善株式会社取締役書籍雑誌事業部長）を後任としたいのでご了解願ひ、またご協力願ひたいとの挨拶があり、関根圭治氏、小林英一氏からもそれぞれ挨拶があった。

ついで理事会報告にうつり、小林理事長代理からの一年間の理事会の活動状況が、大要次のとおり報告された。

「湾岸戦争が終わり、世界経済の動向が変わりつつある。アメリカの景気回復が遅れ気味であり、ソ連の経済的、政治的危機、ドイツ経済の雲行きがあやしいことなどである。東独企業の大量倒産、失業問題、財政赤字拡大、経常収支の赤字転落などで、マルクが急落し、引きずられて円も安くなっている。昨年4月の平均ドル相場は、¥159.49で前年同期比19.8%のドル高・円安局面で、欧州通貨も高水準であった。4月・5月に開かれたG7で円安抑制が言及されたことで、8月に140円台後半、10月に130円台前半になった。しかし、湾岸戦争開戦を契機に、ドイツ経済のつまづきによるマルク急落との相乗作用で、またまたドル高傾向が続いている。湾岸戦争でOPEC諸国が資金剰余国から資金不足国になろうとしており、このような流動的状況では為替相場は従来とは異なった動きをすることが考えられる。また欧米におけるM&Aは激しく、旧東ドイツや東ヨーロッパの出版界の動きを注視してゆかねばならない。

国内では、内外価格差、差別価格の問題が喚起されたが、適正な利潤確保は企業存続の絶対条件であるので、

理事会では慎重に対応してきた。このことは問題が起きてからでなく、日常の広報・渉外活動が重要であると考ええる。

消費税については、転嫁・表示方法のカルテルが、特例的に2年間認められたが、この3月に失効した。詳細は委員会報告で申し上げるが、会員各位のご協力で所期の目的を達したことにお礼を申し上げる。

協会の財政は、昨年ご賛同を得た10年ぶりの会費値上げで、慢性的赤字が解消された。しかし、不足を値上げで解消するのではなく、如何に有効に支出するかが第1義であり、昨年9月の懇談会に出されたご意見を尊重し、理事会で検討のうえ、予算の組方を変更した。即ち、事業費と管理費に分け、どのような事業を行うかを明確にし、委員会会議費を一本にまとめ、同好会補助の考え方・配分を変更した。詳細は予算提案の際申し上げる。

協会創立50周年にあたる今年は、記念すべき年であると共に、次の50周年へのスタートの年にしたい。過去の50年間は、戦中戦後の混乱の復興、国際社会への復帰、先進諸国との格差是正、そして技術革新のための学術情報輸入を通じて、科学技術の進歩文化の向上に貢献してきた。これからの50年は、この実績を基に協会の存在をアピールする絶好の機会と考え、特別委員会を設置した。活動の詳細は委員長から発表する。

和書業界では永年の懸案であった著作権センターを設置した。最近学術書の海賊版はないものの、コピー乱用の時代に対応した洋書の著作権問題もおおざりにはできない。外資の参入、学術情報輸入形態の多様化など、対応すべき問題は山積している。

明るい材料がないわけではなく、通関統計に表れた輸入書籍・雑誌の金額は、昨年初めて500億円台を突破し、502億4千万になった。2年前に比し約37%、前年比約22%の伸びである。20万円以下の小額貨物は統計に表れないので、必ずしも実体を表しているとは言えぬが、送料の高騰を勘案しても伸長率は高水準であると言えると思う。これは外貨預金にも表れている。包括申請によって取得した許可書は前回に比し、件数で54%、金額で37%の伸びを示しており、これ以外にも各社が個々に申請する許可取得実績もあり、印刷物輸入の先行きは決して暗いものでなく、如何に会員のシェアを拡大するかが命題であり、理事会はこの命題の解決に向けて努力してゆく。

会員各位におかれても各委員会に積極的に参加し、討論に加わっていただければ、必ずや業界全体の繁栄につ

なげることが出来ると確信する。ご協力をお願いする。」

ついで各委員会報告にうつり、総務（丸善・松井氏）、会報（極東・内藤氏）、ダイレクトリー（東光堂・石内氏）、経営研究・雑誌（日本出版貿易・杉山氏）、文化厚生（洋販・栗原氏、東亜ブック・鶴氏、テクニコン・楯氏、マイブック・水上氏）、消費税特別（丸善・尾内氏）から、それぞれ活動報告がなされた。

ついで1990年度決算報告が松井氏によってなされ、山縣氏（内外交易）、高橋氏（南江堂）の監査報告ののち、拍手で可決、承認された。

ついで丹羽氏（緑書房）から関西支部報告、1990年度関西支部決算報告がなされ、いずれも拍手で可決、承認された。

ついで1991年度事業計画が、各委員会から提案された。会報（極東・内藤氏）、渉外（ユサコ・山川氏）、広報（第一出版貿易・佐々木氏）、事業（中央洋書・前橋氏）、ダイレクトリー（東光堂・石内氏）、経済研究・雑誌（日本出版貿易・杉山氏）、文化厚生（洋販・栗原氏）、50周年記念事業（第一出版貿易・佐々木氏）

以上の各氏より、協会会報の発行、協会ロゴの作成、セミナーの開催、メンバーリスト改訂版の作成、洋書まわりの開催、ダイレクトリーの出版および各種同好会や懇親行事の開催などにつき説明があり、質疑応答の結果各委員会事業計画提案は、いずれも拍手をもって可決、承認された。

ついで松井氏（丸善）から、1991年度予算案が、丹羽氏（緑書房）から、1991年度関西支部予算案が提案され、いずれも拍手をもって可決、承認された。

以上の議事が終了したのち、吉本氏（紀伊國屋書店）が閉会の挨拶にたち、「ご多用のところ長時間にわたってご審議いただき、大筋のご承認を得ましたことをお礼申し上げます。今年は何といても50周年行事を成功させ半世紀の区切りをつけたい。そして先程海老原理事長のご発言のような“稔なき繁忙”と訣別したい。50周年を回顧するに、良いことばかりではなかった。近年においては、むしろ業界を衰頹させる対応が目立った。私利私心

を棄て、中長期の展望に立ったリーダーシップで、明年より“稔ある繁忙”の業界に脱皮することを提言したい。」旨を述べて、総会を閉じた。

そののち、恒例の懇親パーティにうつり、海老原理事長の音頭による乾杯で宴を開き歓談のひとつきをすごした。

以上

海外ニュース

英国の書店 Net Book Agreement を支持

Net Book Agreement（定価販売維持契約）の存廃が相変わらず英国出版界のホットなトピックスとなっている。4月の英国書店協会の年次大会でNBAを廃止しようとする出版社の動きを遺憾とする全会一致の決議を行った。

このNBAの成立は今世紀初頭ににまで遡るもので、出版社に小売価格を決定する法的権限を与え、書店での定価からの値引販売を認めていない。（但し Non-net というNBAの適用されない書籍を出版できるという規定もある。）

最近の書店に対する調査では、回答した書店（回答率90%）の99%がNBAを支持している。また少なくとも出版社の70%もNBAを支持している。

（P.W.5月17日号から抜粋）

—（俳紀伊國屋書店提供—

「会員紹介」欄への投稿のお願い

「会報」では1967年（S.42）創刊以来「会員紹介」という囲み記事を設け、協会会員のご紹介をしてまいりました。数年前、ほぼ一巡したところで、紙面の都合もあり、一時この欄を休載しておりましたが新しい会員の方も増え、また十数年前とは大分変わったところもおありと思いますので、このたび「紹介欄」を再開することにいたしました。

従来のご紹介に洩れた方々もふくめ、逐次、会報委員会より寄稿のお願いをさせていただきますからその節はよろしくご協力の程をお願いいたします。

洋書輸入協会史 (62)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

66 昭和33 (1958) 年度 (s33. 4 月～s34. 3 月) の規約改正, 理事 (改選) 新入会員, 退会者など (前号よりの続き)

66.4 新入会員

(1) 丸田書房 京都市中京区西ノ京中御門町42

代表者 丸田達美 創立 昭和24年9月1日

資本金 80万円 従業員数 11名

昭和33 (1958) 年5月20日付、JBIA No.18により会員に通知。

同社については、洋書輸入協会会報、Vol.2、No.8 (昭和43年8月号) 7ページに紹介されている。

(2) 大雅出版貿易株式会社 大阪市北区曾根崎新地2-15

代表者 長野英次 創立 昭和24年10月

資本金 100万円 従業員数 21名

東京支社 中央区日本橋大伝馬町1-7

昭和33年7月1日付、JBIA No.25により会員に通知。

同社は現在洋書輸入協会の会員ではないが、同社出身の方は、富士洋書株式会社、白鷗洋書株式会社の他にも数社あり、いずれも現在盛業中である。

(3) 医歯薬出版株式会社 東京都文京区駒込片町32

代表者 今田見信 創立 昭和26年9月1日

資本金 250万円 従業員数 50名

昭和33年12月1日付、JBIA No.51により会員に通知。

同社については、洋書輸入協会会報 Vol.2、No.1 (昭和43年1月号) 6ページに紹介されている。

66.5 退会者

大安文化貿易株式会社 千代田区神田猿樂町

退会に関する記録が無いが、昭和32年5月現在の同業会名簿に記載され、昭和33年5月現在のものに無いので、この間に退会されたものであろう。

66.6 会員数

昭和32年度末 (s33. 3 月末) 現在の会員数が50社であり、昭和33年度中の新入会員が3社、退会者が1社のため、昭和33 (1958) 年度末 (s34. 3 月末) 現在の会員数

は52社である。

63.7 同業会の懇親旅行

昭和33 (1958) 年10月19日より20日まで、熱海市海岸通り 東洋観光ホテル一泊で開催された。参加は23社27名。

20日朝食後は各種問題につき意見交換、その後有志にて初島行きを試みたが、荒天のため途中から引き返すハプニングがあった。

67 昭和33 (1958) 年度のその他の出来事

67.1 フランス書展の開催

昭和33 (1958) 年の1月末に、フランス大使館の Toffin 氏より、フランス書展示会の話が持ちこまれ、さらに1月30日付の、フランス大使ベラルー氏より洋書輸入協会の理事長宛の、協力要請の書翰を受け取った。

理事会としては、早速大使館側と打ち合せ、2月25日付の JBIA No.6をもって下記のように会員に知らせている。

記

フランス書展覧会開催の件

先般2月7日の懇談会の節御報告致しました通り、フランス書の展覧会が下記の予定にて開催されることになりました。本会はフランス大使よりの要請に基づき、全面協力を致すことになりましたから御知らせ致します。詳細は追って判明し次第お知らせ致します。

主催 COMITE PERMANENT DES
EXPOSITION DULIRE, PARIS

後援 在日フランス大使館

時期 本年6月2～3日ー10～11日

会場 東京銀座 松屋

出品 約4,000冊 Du Luxe Ed. 及び複製画を含む別紙リストの通り

費用 一切の費用委員会で負担

開催時期に委員が派遣され、出品物は一切販売せず。東京開催後他の日本都市でも開催希望あり。(以上)

その後理事会メンバーは、準備のための専門委員とな

り、フランス大使館と幾度も打ち合わせつつ準備を進め、6月4日から10日の間の展覧会を無事終了させることが出来た。なお6月24日から30日の間、京都の日仏会館においても開催されている。京都には、来日中のフランス展覧会委員 De Segrais 氏とフランス大使館の天野氏が赴き、京都丸善の小林店長が世話役となり、同社京都支店、三洋出版貿易京都支店、京都の丸田書房、大阪の旭屋書店、大阪の北尾書店新社、大阪の海外書籍貿易商会、大阪の梅田書房などから交代して人を出し、説明役としてお手伝いをしている。

67.2 ドイツのアルチニ社倒産の件

昭和34（1959）年2月6日の理事会で、大阪の緑書房よりの来信が議題となった。即ち、ドイツの Warner Arcini 社と取引を持つ関西の会員から、最近同社との取引が円滑を欠くという申出があった。それを追いかけて同社の倒産が伝えられたので、関西の関係各社が集まり被害状況の調査や、対策の協議を行う由。ついては東京の各社にもお知らせ頂きたいことと共に、ドイツへの照会、確認方をお願いしたいとのことである。

これを受け、早速ドイツの Wörsenverein に問い合わせを出すと共に、会員への通知を手配することとした。

アルチニ社については、東京の会員で取り引きのあるところの間で、昨年来急に支払の催促が厳しくなったという噂も出ていた。しかしこの倒産による金銭的被害は少なかったようである。

67.3 Donald Moore 氏を囲んで

昭和34（1959）年3月（と思われる）に、同氏の来日を機会に取引先が集まって懇親会を開いた折の写真があったので掲載する。

68 インク・スト

68.1 英国印刷業界のスト始まる

英国の印刷業界がストを始めているという話は、昭和34（1959）年6月頃から聞こえ始め、新聞に取り上げられる他、英国の出版社殊に雑誌の出版社新聞社から我々洋書輸入業者への減頁或いは発行遅延の知らせが入るようになった。

英国の労働組合は、周知のように企業別ではなく職能別となっているため、印刷工がストを始めると、全印刷所に影響が及ぶ。そしてストが印刷工だけでなく印刷インク製造業界にまで波及したため、ますます大規模化、



長期化の様相を呈し始めた。そのため、このストがマスコミからインク。ストと呼ばれるようになり、長く記憶に残るものとなった。

このストに関し、協会では、昭和34（1959）年7月8日付のJBIA No.80で次のように会員に知らせている。

記

英国における印刷業界ストライキについて

THE BOOKSELLER、5月23、30、6月6、13、27日付の各記事によりますと、英国印刷業界関係各職種組合のストライキは次第に発展し、殊に印刷インキ工にまで及んだ結果、6月20日以後全英4,300の印刷工場の大部分が操業停止の止むなきに至り、週刊誌は勿論、政府刊行物に至るまで発行が停止されるものが出ました。新聞の発行も停止又は減頁をされていますが、それさえ発行継続を危ぶまれるに至り、書籍も新刊・重版共発行遅延続出の由です。

既に内地の新聞にも報道され御承知の事とも存じますが、目下1 Spokesmanの見通しとして、今後少なくとも6～10週間位は続くと上記6月27日号にあります。これも予測の範囲を出ていない模様で、現に同号も記事4頁と、小形に印刷された週間の新刊11頁を載せているに過ぎません。

書籍の発行については、大体7月初旬以後のものから、多少に拘らずこの影響を受けるものと思われますので、今後の成行きに注意を要しますが、取敢えず上記御通知致します。（続く）

海外ニュース

インド輸入業者の危機

3月20日インドで導入された輸入品に対する外貨規制は輸入書にも適用されることとなった。このため業界として政府に輸入書のへの適用免除を申し入れているが見通しはついていない。インドの輸入書業者はそのビジネスが破滅するのではないかと心配している。今回の規制は悪化するインドの国際収支に対し、輸入規制を通じ外貨節約をしようとするもので、来る総選挙後には解除されると期待されているものの数ヶ月は続けられる見通し

となっている。

今回の規制ではクレジット・ベースの輸入取引は出来なくなり、コンサイメント・インボイス額の133 $\frac{1}{3}$ %の現金を前金で準備することが必要となるため多くのインド取次業者は、海外出版社とのスタンディング・オーダーをキャンセルせざるを得なくなったとしている。

1991年は英国書の対インド輸出にとって不振の年になることはほぼ間違いない。

（The Bookseller、4月12号から抜粋）

—（株）伊國屋書店提供—

おしらせ

次の通り就任通知がありました。

マグロウヒル出版株式会社

代表取締役社長 水間裕市 新任

前代表取締役社長崎山克彦氏は円満退職されました。

計 報

三品書店代表者、三品要次氏は、去る2月21日脳梗塞のため逝去された。享年91歳。葬儀は2月24日にご自宅でとり行われた。

三品氏は大正・昭和の二世代にわたって教文館に勤務され、昭和27年、三品書店を創業、キリスト教書ひとすじに70年の生涯をおくられた。

おしらせが遅くなりましたが、心からご冥福をお祈りいたします。

シェイクスピア
余丁町辺の坂と沙 翁 劇〔3〕 沙翁劇上演花盛り

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

明治32年川上音二郎・貞奴一座は欧米巡業に旅立ち、各地で熱狂的な歓迎と高い評価を受ける。ボストンではシェイクスピア劇の名優ヘンリー・アーヴィングに対抗して一夜漬けの『ヴェニスの商人』を上演して喝采をほくし、フランスにおいても貞奴はサラ・ベルナールに比肩する名女優ともてはやされ、また一座の劇はアンドレ・ジイドをいたく感激させ、彼は6回も劇場に通って称賛おくところがあったという。また、第2回目の海外巡業ではロシアの大演出家メイエルホリドに強い印象を与え、前衛派のロシア演劇を刺激したという。そうして帰国した川上は歌舞伎でもない新派でもない新しい劇、正劇運動を開始する。明治36年には硯友社の江見水蔭の翻案による本邦初演の『オセロ』を上演し、初めての西洋風舞台様式によって当時の演劇界に新風を吹込んだ。さらにこの年『ゼ・マーチャント・オブ・ヴェニス』『法廷の場』を原作どおりに上演し、またたてつづけに『沙翁悲劇・ハムレット』を本郷座にかけて興行的に大当たりをとる。

川上一座が華々しく沙翁劇の幕をあげた明治の30年代は、シェイクスピア劇の上演が花咲いた時代であった。京都では演劇の改良、近代化を目指して高安月郊や島華水京大教授など京都在住の知識人、財界や官界、さらに俳優、松竹などによって京都演劇改良会が結成され、シェイクスピア劇で明治35年の『闇と光』（高安月郊「リア王」の翻案劇）、同じ年「ハムレット」の『紅葉御殿』、また明治38年には島華水の翻案劇『マクベス』を上演し、京都演劇改良会による三つの本邦初演の大きな事績が作られる。明治37年には川上一座からでた新派の伊井蓉峰一座による『ロメオ・エンド・ジュリエット』が本邦初演で上演されるが、これは森鷗外の紹介で文芸部員となった未だ学生の小山内薫が翻案・演出したものであった。明治40年には佐藤紅緑の翻案『新ハムレット』が新派の高田実・喜多村緑郎によって本郷座にかけられる。またこの年伊井蓉峰の弟子の山崎長之助の一座が上演した『新ハムレット』は例のハムレットの第4独白 (to be or not to be) が舞台で初めて語られた劇であった。そして同年11月に文芸協会による『ハムレット』劇が上演され

るが、これは登場人物をハムレットやオフィリアなど原作どおりの人名でよんだ初めての本格的ハムレット劇であった。留学から帰朝した島村抱月が、逍遙の指導のもとにあった易風会を発展させて設立・主催した前期文芸協会の最後の上演で、この直後に協会はいきずまり、これ以後逍遙が直接関与することになって後期文芸協会がスタートする。逍遙は余丁町の自宅に演劇研究所を設立して、シェイクスピア劇への活発な取り組みをおこない、明治44年には第1回公演として帝国劇場に逍遙の指導による完全上演の『ハムレット』をかけた。オフィーリアを演じた松井須磨子のデビュー劇であった。

さて、抱月と須磨子の恋愛は有名な事件であるが、これが引き金となって大正2年、初めての本格的『ジュリアス・シーザー』を帝国劇場で公演したのを最後に文芸協会は解散する。そして、協会の事蹟は芸術座や無名会、舞台協会などの新しい新劇劇団に受け継がれ育って行く。大正時代でついでにもう1つ触れると、同じ年近代劇協会が森鷗外訳『マクベス』を上山草人の演出で帝劇にかけるが、この訳は逍遙が校閲し、誤訳の訂正、助言が30ヶ所に及んだという。余談だが、舞台の兵隊たち数百名の鎧が新聞紙で作ったものであったため「びりびり音がして」セリフが聞こえなかったという噂もでた（草人談）。

私が調べただけでも明治期の沙翁劇上演は40件ほどを数える。そのほんの一部の紹介に止まったし、まして演劇改良から築地小劇場へと流れて行く新劇の歴史に触れることは全くできなかった。入手可能な文献として大笹吉雄氏の大作『日本現代演劇史』（白水社）や河竹登志夫氏『日本のハムレット』（南窓社）などを参照頂きたい。



MOLECULAR BIOLOGY LABFAX

Edited by T.A. Brown

Series Editors: B.D. Hames
D. Rickwood

真打ち登場！ 全く新しいタイプの分子生物学ハンドブック

推せんします

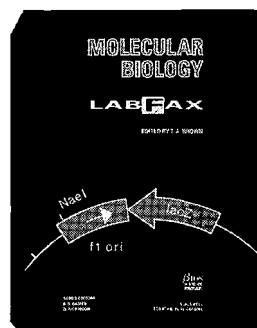
ここ10数年間に日本においても遺伝子工学の手法は急速に広がり、生物学、医学、生理学、薬学、農学、工学さらに産業界と多分野で利用され、必須な技術となって来た。現在では、この遺伝子工学的手法をもとにした広い意味で、分子生物学という学問分野が社会に定着した感がある。また、それにつれて現在までに数多くの実験書が出版され、シリーズとして扱った、しっかりした本も出されており、内容は年々充実して来ている。

しかし、研究者が座右において参考にできるハンドブックの出版はほとんどなかった。したがって、これまでは実験書、カタログの付録や文献をコピーし、各研究者がファイルしておかざるをえなかった、それでも広い内容をカバーしたものを作成している研究者は数少ない。その意味で、本書は初心者から第一線で仕事をしている研究者にとって待望の出版物である。

本書の構成は、分子生物学で今現在盛んに使用されているバクテリア・ベクター、薬品、酵素の解説、生物ゲノムサイズやコドンユースージのまとめ、電気泳動法の基礎、ハイブリダイゼーション法・遠心分離法の条件が詳しくかつ、わかりやすくまとめられており、何よりも便利な本である。

必ず読者の期待に答えられるものと考えられる。

国立がんセンター研究所 副所長 分子腫瘍学部長 寺田 雅昭



ISBN: 1-872748-00-7
322PP Hard ¥8,780- (本体価格)

CONTENTS

1. Bacteria and Bacteriophages □ 2. Chemicals and Reagents □ 3. Radiochemicals □ 4. Restriction and Methylation □ 5. DNA and RNA Modifying Enzymes
6. Cloning Vectors □ 7. Genomes and Genes □ 8. Electrophoresis □ 9. Hybridization Analysis □ 10. Centrifugation □ 11. Safety

もうお買い求めになられましたか？ —中央洋書の分子生物学選書—

IRL Press

DNA Cloning vol.1	¥ 7,040—□
DNA Cloning vol.2	¥ 7,040—□
DNA Cloning vol.3	¥ 7,040—□
3vols. set	¥18,040—□

分子生物学フロンティアシリーズ

Molecular Immunology	¥6,000—□	Gene Rearrangement	¥6,480—□
Transcription and Splicing	¥6,000—□	Molecular Neurobiology	¥6,480—□
Genes and Embryos	¥6,120—□		
Oncogenes	¥6,120—□		

Humana Press

Experimentals in Molecular Biology	¥5,600—□
Methods in Molecular Biology	
vol.1 Proteins	¥5,600—□
vol.2 Nucleic Acids	¥5,600—□
vol.3 New Protein Techniques	¥9,400—□
vol.4 New Nucleic Acid Techniques	¥9,400—□

※すべて本体価格

□にチェックの上最寄りの書店あるいは小社に直接お申し込みください。

氏名	TEL ()	書店名
連絡先		

BIOS Scientific Publication 日本総代理店 中央洋書株式会社

〒101 東京都千代田区神田神保町1-13
TEL 03(3294)5151 FAX 03(3293)5485

1991年6月 通巻第290号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎ 3271-6901 FAX. 3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329